



# 神奈川県環境学習リーダー会 会報 No. 48

2005 06年  
12月 1月

役員会報告..... 1	ケナフ部会 ..... 5	CO <sub>2</sub> 封じ込め作戦について 10
平成 18 年度役員立候補受付 . 2	大気環境部会 ..... 6	「みんなの環境展」2006.. 12
親子で楽しむ環境展 出展参加募集 ..... 2	自然環境部会 ..... 7	新入会員のメッセージ..... 13
グリーン教育支援システム 受託について ..... 2	廃棄物 GO3 部会 ..... 7	リレー登場 「かながわエコBOX」をご利用 ください! ..... 15
第 2 回地球温暖化防止の集い報 告 ..... 3	グリーン部会 ..... 7	時限爆弾をかかえる ..... 15
農産物の収穫体験のご案内... 5	豆知識のページ アジェンダ指標作成 ..... 8	掲示板 ..... 16
部会報告	会員の広場 地球市民をつくりたい ..... 9	編集後記 ..... 16
エネルギー部会 ..... 5	ゴミで谷を埋め、道路を造る ..... 9	

## 役員会報告 (事務局長 大森 勝)

12月役員会 (12月12日)

### 1. 確認事項

11月末会員数 正会員 170名、賛助会員 8名、  
特別会員 2名 合計 180名。

### 2. 付議事項

第 5 回親子で楽しむ環境展

第 1 回実行委員会を役員会終了後開催し、以降は役員会前の午前中とする。前回決めた運営組織のメンバーは、6月環境展終了まで継続する。

県グリーン教育支援システム

現時点で 3 校 (小田小学校 (川崎)、みずほ小学校 (平塚)、今宿小学校 (茅ヶ崎))

実施する予定。

平成 18 年度総会

5月13日 (土) 神奈川県環境科学センターで開催する。

18 年度役員募集を 48 号会報で行う。

第 12 回市民環境活動報告会

- ・細部実施要領が報告された。
- ・k・リーダー会の「2005 エコタウン」報告については、2 グループ分の時間をもらいテーマの担当者を報告者とする合同 (計 7 人) 報告とすることになった。
- ・ポスターセッションは各部会参加する (1 部会 A1 パネル 2 枚程度)

### 3. 報告事項

H17 年度第 2 四半期会計報告がなされた。

1月役員会 (1月10日)

### 1. 確認事項

12月末会員数 正会員 170名、賛助会員 7名、  
特別会員 3名 (賛助会員から 1名追加)  
計 180名

### 2. 付議事項

17 年度「第 12 回市民環境活動報告会」

・報告会のプログラムが報告され、役割分担が確認された。

・リーダー会の前刷り原稿が紹介され、仕上げ調整に入ることとなった。

グリーン教育支援システム

・みずほ小 (平塚)、小田小 (川崎) は実施日、教育内容は決定された。

・今宿小は今月末に詳細決定予定。

第 5 回親子で楽しむ環境展

午前中に実行委員会が開催され、内容が報告され確認された。

平成 18 年度温暖化防止の集い

昨年 12 月に開催された 17 年度の集いは、リーダー会は大気部会だけの参加であったが、来年度は、広く参加を募集することになるとの報告がありました承された。

### 3. 報告事項

県に申請中であった 18 年度協働事業「子供体験教室」は不採用となった。

来年どの各部・各部会の予算案と活動方針は、2月10日までに提出する。



## 平成 18 年度役員の立候補 (自薦・推薦)を受け付けます

事務局長 大森 勝

平成 18 年度の総会は 5 月 13 日(土)午後開催  
されます。(詳細は次号)

この総会の席で、新しい役員を改選することになり  
ますが、前もって次年度の役員の立候補または推  
薦を皆様から受け付けます。

「k・リーダー会」の役員として、運営に携わって  
下さる方、また、役員に推薦したい方がおられまし

## 第 5 回親子で楽しむ環境展

### 団体・グループの出展参加募集!

環境展実行委員会

今年も“第 5 回親子で楽しむ環境展”～地球の未  
来のために～が下記要領で開催されます。企画の詳細  
については、現在検討中ですが、展示・体験コー  
ナーは従来通り実施の予定です。つきましては展  
示・体験コーナーへの出展を平成 18 年度も、平成  
17 年度同様お願いいたします。より多くの団体・グル  
ープの出展参加を期待しています。

ご検討の上ご参加頂きたくお願いいたします。

なお準備の都合上、参加出展締め切りを平成 18  
年 2 月 20 日(月)とさせていただきます。

出展参加希望団体・グループの方は下記申し込み  
先宛連絡をお願いします。

#### 第 5 回親子で楽しむ環境展実施要領

1) 環境展：～地球の未来のために～

第 5 回親子で楽しむ環境展

2) 主催：

- ・神奈川県環境学習リーダー会
- ・NPO 法人 かながわアジェンダ推進センター
- ・神奈川県
- ・かながわ地球環境保全推進会議

3) 開催日時：平成 18 年 6 月 17 日(土)

10 時～16 時 30 分

## 県のグリーン教育支援システム 受託について

事務局長 大森 勝

県では昨年度、学校における環境教育の取組みを  
支援することを目的に「グリーン教育支援制度(仮  
称)」を試行し、当会もこの制度に協力し県下の 3

たら、是非、積極的に事務局までお名前・修了期等  
をメールまたは F A X でお知らせ下さい。宜しくお  
願いいたします。

申し出締め切り：2 月 20 日(月)

連絡先：事務局長 大森 勝

〒230-0078

横浜市鶴見区岸谷 3-24-16-112

E-mail: omori-m@msh.biglobe.ne.jp

Tel/Fax: 045-584-7907

4) 開催場所：かながわ県民センター

1 階展示場・102 号室他

5) 実施内容：体験・展示、他(現在検討中)

出展参加希望団体・グループには実施要領が決ま  
り次第、詳細な連絡をさせていただきます。

#### 団体・グループの参加申し込み要領

・団体・グループ名	
・責任者名	
・展示コーナー (どちらかに 印)	参加 不参加 (表示内容は未定で も参加の有無を提出 して下さい)
・体験コーナー	参加 不参加 (表示内容は未定で も参加の有無を提出 して下さい)
・環境展対応責任者 氏名および連絡先	氏名： TEL / FAX： 電子メールアドレス：
・その他	

申込み先・連絡先 〒230-0078

横浜市鶴見区岸谷 3 - 24 - 16 - 112

氏名：大森 勝

TEL / FAX：045 - 584-7907

E-mail：omori-m@msh.biglobe.ne.jp

小学校で環境教育を実施しましたが、今年度から本  
格的に「グリーン教育支援システム」として発足いた  
しました。

k・リーダー会は、今年度も以下 3 校での実施が  
決定しておりまして、関係者には、以下のようにご  
協力をいただいています。当会報が皆様のお手元に

届く頃には、2校の教育支援は完了していますので、詳細は次号をお待ちください。

なお、県の本システムの概要を掲載しますので、皆様の最寄りの学校へおでかけいただき、18年度は更に多くの小、中学校への実施が計画されていますので、18年度の学校カリキュラムに組み込むようPRをお願いします。

記

1. 川崎市立小田小学校 (1月19日実施)  
 テーマ：環境保全意識とエネルギー関係の体験学習を行う。  
 工作：ソーラー電池を使ってオルゴールを鳴ら

そう

2. 平塚市立みずほ小学校 (1月24日実施)  
 テーマ：食べ物を題材に買い物と環境問題のつながりを学ぶ。  
 ワークショップ：生産地によって運ばれエネルギーが違う、季節はずれの野菜はエネルギーが多く必要なことを知る。
3. 茅ヶ崎市立今宿小学校(実施時期等詳細未定)  
 テーマ：自然エネルギーについて学ぶ。  
 工作：ソーラークッカーを作ろう。

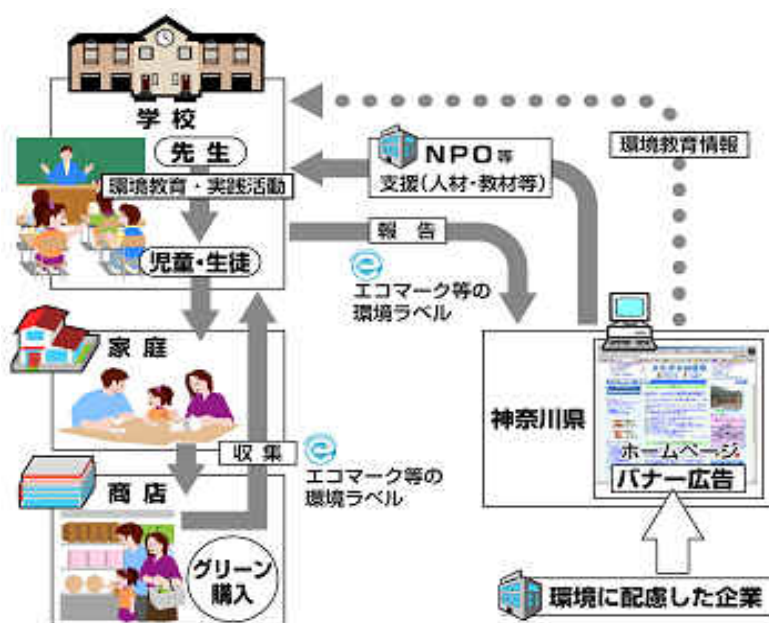
\*\*\*\*\*

ホームページ「かながわの環境」から

グリーン教育支援システムとは

グリーン教育支援システムは、マイアジェンダに登録して、エコマーク等の環境配慮商品についているマークやグリーン購入についての理解を深める環境教育を実施する県内の小・中学校に対し、その学校で実施する環境教育及び環境保全活動に必要な支援を行う制度です。支援の財源として、環境配慮活動に取り組んでいる企業の広告を、県のホームページ「かながわの環境」に掲載し、その広告収入を活用しています。

グリーン教育支援システムイメージ図



目標実現のため指標づくりを！

第2回 地球温暖化防止の集い報告

“そら”分科会報告とまとめ役担当 猪股満智子

平成15年10月、市民・企業・行政・NPO等に行動を呼びかけ策定された「新アジェンダ21かながわ」。その主要テーマについての活動の事例報告と意見交換を行い、今後のアクションプランについて検討しました。主催は神奈川県・かながわ地球環境保全推進会議・神奈川県地球温暖化防止活動推進センター（NPO法人かながわアジェンダ推進センター）。

今回は16団体の神奈川県地球環境賞表彰式を終えた後、すぐに「集い」開催の挨拶に続いて分

科会を開催。午前は事例報告、午後には討議とまとめ、その後一同に会し全体会報告となりました。今回の特色は企業からの事例報告が加わったことです。

分科会“そら”事例報告は

1. (株)日本触媒川崎製造所(今回、県地球環境賞受賞)  
 04～07年3月までの環境保全の目標( PRTR法対象物質の15%削減/対01年、廃棄物の50%削減/対03年、エネルギー原単位の02年度レベルの維持等)を掲げ活動し、大気への影響の低減にも努めている。
2. 古代信行  
 15年前から県タクシー協会の支援を取付け

アイドリングストップ運動を個人で始める。しだいに推進員の協力も得られて各地域のタクシー会社や神奈川バス協会 各バス会社へと広がり、燃費の対前年比 10%削減目標を掲げ展開中である。活動を実のあるものにするには、外部チェックを受けることと、行政・事業者・市民の連携が欠かせない。

### 3. 神奈川県環境学習リーダー会・大気環境部会 (猪股満智子)

当部会の環境マップは、県下に点在する同胞の潜勢力を生かし環境意識の向上・ライフスタイルの見直し・車抑制・地球温暖化防止へと結び付けられるかの活動でもある。一部会での活動から関連部会や他のグループ、気づいた人々との連携活動が重要になる。

### 4. 秦野の自然と環境を守る会 (発表者 川邊敏雄)

12 年前、道路計画を発端に NO<sub>2</sub> 測定団体として発足。後に“そら”と生物との影響に関心を持ちオオタカ保護・自然環境保護へと活動が広がった。「隠す」ことより「公開して皆で保護する」という考えでオオタカと人間の共存を試行し、他団体や行政への情報提供、提言へとつなげている。

### 5. ちがさき自転車プラン推進連絡協議会

環境市民会議「ちがさきエコワーク」の環境まちづくり部会が市の計画に参画し、協議会となった。平坦なまちであることから自転車専用レーン・駐輪場を整備し、車から自転車へ切り替えバスに乗り継ぐ「サイクルアンドバスライド」の社会実験を H16 年に実施し好評であった。17 年度はさらに 2 ルート増設の予定。

## 討論での主な意見は

1. 事業者も頑張っていることを伺えたが、市民は企業努力をなかなか知り得ない。さらに業務・製造部門について明らかにして市民に示していただきたい。
2. CO<sub>2</sub>6%削減という数字がひとりあるきしていて、景気が上向くと企業には厳しくなる。
3. 各セクションにエネルギー管理者を配置、コスト削減をテーマに管理徹底させてみては。スーパー等の商品・温度管理などまだまだやれてないところにメスを入れる必要も。
4. アイドリングストップ運動での成果検証の重要性は、今後の活動の際には、当事者側の意を汲むことも大切である。
5. 大気測定からオオタカ保護活動に広がったということであるが、光化学オキシダントは人体よりも植物に感受性の高いものがあるとのこ

と。神経質になる前にこれらの生物・自然に関心を持つことでも環境変化に気づけ、道具なしで観察の重要性に気づける。

6. 茅ヶ崎市は迷惑条例の中にアイドリングストップ (IS) しない車に 2 万円の罰則規定を盛り込んだ。問題は誰がそれを取締り、執行するかがなく残念。県条例は 500 m<sup>2</sup>以上の事業所は IS ポスターを張ることをうたい、悪質の場合は公表できる。
7. 横浜市営バスでは IS 車導入で 28%燃費削減できたという。IS 運動と IS 装置・ハイブリッド車の導入を各温暖化防止活動推進の組織づくりのきっかけにしたらどうか。
8. K リーダー会の NO<sub>2</sub> 測定データのホームページ掲載は、市民へのアクセスを考えた方法で意義がある。他団体の測定データもこれに集約することができれば有用と思うが。(残念ながら測定方法がそれぞれ異なるデータを一同に集約データとすることは乱暴で、できません)

## 今後のアクションプランは

1. 事業者 (殊に運輸部門) 努力の評価と市民側との情報共有。目標となるものを指標化し、PDCA (Plan 立案 Do 実施 Check 点検・評価 Act 見直し) へと回そう。
2. ライフスタイルの見直し、実践。マイカーから徒歩・自転車・公共交通機関の利用等。
3. NO<sub>2</sub> 測定・酸性雨測定、生き物観察・調査は CO<sub>2</sub> 削減の目安としても市民の環境教育、手段としても重要。行政への提言データにも活用しよう。

## まとめ

それぞれの事例、それを踏まえての討議。活動グループ間の共有化とともに連携の大切さに気づかされる。今回、事例報告に事業者が加わったことでなお一層お互いの強い刺激になった。意見交換の重要性が認識された。

## 余録

前記内容についての報告は秦野グループ・川邊氏の協力も得て、分科会まとめ役の安丸代表と私の手で提出いたしました。また、アクションプラン 1 に盛り込んだ目標の指標化が、「集い」終了後直ちに始まっています。これからも会として見守り、協力していきたいものです。



# 農産物の収穫体験のご案内

自然環境部会 近藤 作司

部会活動欄に記載の通り、自然環境部会では地産地消の実態に触れる一部として、農産物の収穫を体験してみようと計画しました。横浜市農政事務所の紹介で、横浜市戸塚区戸塚町の農家（大木さん）で実現することになりました。「農産物の収穫体験」を次の通り行いますのでご案内します。

【開催日時】平成 18 年 2 月 19 日（日）10 時～

【場所】大木さんの作業小屋

横浜市営地下鉄 立場駅 徒歩 10 分位

【集合時間】9 時 45 分 立場駅改札出口

## 部会活動

### エネルギー部会

部会長 安藤 紘史

活動報告（17 年 12 月～18 年 1 月）

12 月度定例部会：

12 月 11 日（日）13：00～15：00

会場：県民サポートセンター 602 号室

参加者：井上、岩澤、大森、吉田<sup>※</sup>、北村、  
鎌田、吉田<sup>※</sup>、小田、藤木、安藤

リーダー会役員会の報告

市民環境活動報告会について

ポスターセッション参加。内容は次回決定。

川崎市小田小学校向けグリーン教育について

昨年同様、アース・エコと共同で取り組む。

情報交換

人口減少時代の街づくりについて

（生態系協会のセミナーから）

京都市環境条例に関する情報提供

1 月度定例部会

1 月 8 日（日）13：00～15：00

会場：県民サポートセンター 608 号室

### ケナフ部会

ケナフ部会長 荒谷 輝正

ケナフ部会員が携さわった 2005 年 12 月～2006 年 1 月までの活動及び 2 月～3 月迄予定について報

【作業】1 時間程度の意見交換の後、収穫体験。  
露地栽培野菜なら『ほうれん草』、『小松菜』など。

【費用】無料。但し収穫した物は実費を支払う。

【持ち物】小雨決行としますので雨具対策をお願いします。

マイバッグのご用意を。

昼食は駅近くのスーパー食堂にて反省会をかねて摂る事にします。

【申し込み先】近藤作司 T & F：0467-78-6843

E-mail: s-kondo@khaki.plala.or.jp

（注意）畑で作業できる服装、軍手等お忘れなく。

参加者：北村、藤木、大森、吉田<sup>※</sup>、児玉、井上、  
安藤

役員会報告

情報交換

太陽光発電の現状について

市民環境活動報告会について

・部会対応の発表内容について報告

・パネルセッションのテーマについて審議

グリーン教育（川崎小田小学校向け）の準備  
状況報告

活動予定（05 年 1 月～06 年 4 月）

1. 定例部会（於：県民サポートセンター）

2 月 12 日（日）14：00～15：30 601 号室

3 月 12 日（日）13：00～15：00 601 号室

4 月 11 日（火）13：00～15：00 705 号室

2. グリーン教育

1 月 19 日（木）川崎市立小田小学校 3 年生 105 名に実施。工作と実験は太陽光発電とオルゴール、LED。

3. 市民環境活動報告会

2 月 18 日（土）リーダー会報告の一部に参加とパネルセッションに出展。

告します。

1 ケナフ部会定例会

11 / 25 ケナフ部会恒例になりました、第 3 回の研修旅行を、埼玉県比企郡小川町伝統工芸館で「紙漉を」実習を実施しました。また、

久保昌太郎紙工場を見学、手漉きの伝統的な作業及び昌太郎社長から機械、工場の立地条件、治工具の細かい配慮、工夫等職人のたゆまない工夫についてお聞き大変感激致しました。

その他の実施項目は 11 月に報告したとおりです。

## 2 対外的な活動

この期間の対外活動はありませんが、2005 年 11 月 1 日に平塚市大野小学校で「紙漉」実施しましたが、その後、生徒独自でいろいろ体験されて各種の作品を作られ、6 年 2 組、4 年 3 組の生徒から礼状と作品が届けられました。大変うれしかったです。



コウゾウの木（和紙の原料）



久保昌太郎社長の紙漉風景



コウゾウで出来たパルプ



久保昌太郎社長がハケの説明。こんなところにも工夫が有ることに感激



家の立地位置も南側に空き地があり、風よけ、乾燥し易いように工夫されている。



紙漉の実習風景（A1 の用紙を漉いているところ）

## 3 今後の予定

- 2006 年 1 月定例会 市民環境報告会 準備
- 2 月 18 日 第 12 回市民環境活動報告会参加
- 2 月 18 日 相模原市大野北公民館環境講座で

「古紙写真立て」講座実施

3 月 環境科学センター園場 畑起し（耕運）

~~~~~

## 大気環境部会

部会長 猪股 満智子

測定協力ありがとうございました！

400 地点到達。Map 化はしばって 290 地点余

活動報告（12～1 月）

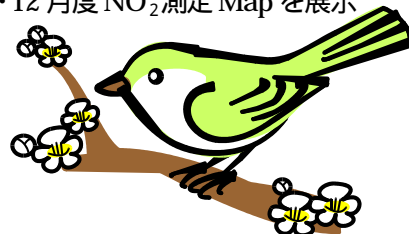
12 月 1 日（木）18 時～2 日（金）18 時の 24hr 測定  
12 月 10 日（土）13 時～ KERC 実習室で分析  
今回の測定参加グループは、かまくら環境会議、鎌倉交通計画研究会、鎌倉市関谷道路を考える会、神奈川区の環境を考える会、厚木環境市民の会、座間市教育研究所。  
逗子市沼間中、横須賀市小原台小の測定は測定日時ずれのため除外

12 月 18 日（日） 横浜開港記念会館  
県・アジェンダ推進センター主催（内容別掲）  
「温暖化防止の集い」で事例報告とまとめ役  
1 月 23 日（月）部会とマッピングプロジェクト  
NPO センター大船（玉縄交流会館）  
マッピングプロジェクト  
部会（測定評価、来年度に向けて）

活動報告会・ポスターセッション見に来てください

活動予定（1～3 月）

- 2 月 18 日（土）市民環境活動報告会参加
- 6 月・12 月度 NO<sub>2</sub> 測定 Map を展示



## 自然環境部会

部会長 近藤 作司

### 活動報告 (12月~1月)

#### 1. 自然観察会

横浜自然観察の森

12月11日(日)9:00~12:30

参加者:安丸、高橋、岩田、藤田、安部、鎌田、近藤(7名)

12月11日は、「横浜自然観察の森友の会」が行っている「バードウォッチングをしながら森の生きものの観察」と言う行事が計画されていました。40名近い参加者を3班に分け、それぞれ友の会と日本野鳥の会神奈川支部のベテランリーダーによるご案内が受けられました。(K・リーダーは第3班、日本野鳥の会大越氏の案内。写真参照)



横浜自然観察の森作成の『鳥類チェックリスト』107種類との照合では、3班全体では24種類が見られたが、第3班では15種類だけであった事が報告された。姿は見えないが鳴き声が認識されたものも数種類いました。

台湾リスによる食害(立ち枯れ)が数箇所で見られ驚きでした。

#### 2. 12月部会

自然観察会のあと、観察センター研修室にてミーティングを行った(13時~15時)

今後の活動について意見交換。テーマのみ列挙します。

- ・ 自然観察
- ・ 外来種問題
- ・ 動物の食害問題
- ・ 地産地消 農産物の収穫体験
- ・ 地域交流会との連携
- ・ 6月環境展への出展

#### 3. 1月部会

1月15日(日)17時~19時

県民サポートセンター11F

出席者:安丸、高橋、岩田、藤田、内藤、近藤

- ・ 農産物の収穫体験を具体的に進めることとし、高橋さんに折衝をお願いした。
- ・ 動物の食害問題:4月以降の課題とし、調査の上具体化する。
- ・ 6月環境展出展:パネル展示を計画し参加する。

## 廃棄物G O 3部会

部会長 原 信夫

#### ・報告

部会開催

12月10日(土)10:00~12:30

場所 環境科学センター

会議内容

\* 会計報告

\* 厚木環境展へのパネル展示

\* 環6号の発行(5月予定)内容検討

\* 来年度のゴミ分別カレンダーの収集について

\* 6月の環境展について

#### ・今後の議題

\* 環6号の内容を詰める(横浜G30に照準を合わせる)

\* 18年度ゴミ分別カレンダーの収集体制

\* 18年度役割分担について

\* 環境展(6月)、子供環境体験教室(8月)について

## グリーン部会

部会長 杉山 陽絵

### 活動報告(12月~1月)

12月23日 ミーティング

お雑煮や冬の食材を題材にした紙芝居のシナリオ検討

おつかいゲーム進行方法の検討

1月9日 紙芝居内容確認

平塚市立みずほ小学校授業の準備

1月16日 紙芝居リハーサル

1月24日 平塚市立みずほ小学校授業実施

今後の予定は、お問い合わせください

## = 豆知識のページ =

# アジェンダ指標作成プロジェクトについて

かながわアジェンダ推進センター  
代表理事 鍋木 孝昭

### 1. はじめに

持続可能な社会を目指す「新アジェンダ 21 かながわ」は、エネルギーから国際協力までの 11 分野で企業・県民・行政・NPO に行動メニューを「アクション」として示し、環境配慮行動の促進を促しています。

その環境配慮行動の結果、わが神奈川県環境がどうなっているかを把握する必要があります。そうしなければ、せっかくの行動が正しいのか、正しいとしてもどの程度効果があるのかわかりません。把握するためには、その効果を計る「ものさし」が必要であり、新アジェンダ 21 かながわの推進主体であるかながわ地球環境保全推進会議では、アジェンダの「指標」を作ることにしました。

こう書くと、「別にわざわざ作らなくてもよいだろう、環境基本計画にも、“水質基準の達成比率”や“一般廃棄物最終処分量”などたくさん指標があるだろう。」とおっしゃる方もいらっしゃるでしょう。でも、アジェンダでの指標は少し違うものなのです。

### 2. 持続可能性指標

1992 年の地球サミットで採択されたアジェンダ 21 では、第 40 章に、持続可能性指標の開発が謳われています。アジェンダの指標とはこの持続可能性指標のこととご理解ください。持続可能性指標とは持続可能な社会づくりの進捗度合いを定量的に測る「ものさし」です。単に空気がきれいだ、森が健康だ、というだけではないのです。アジェンダを作る際にもステークホルダー（利害関係者）間の合意形成が重視されますが、指標づくりも同様なのです。合意のうえで作ることで、政策決定者が政策の優先順位を明確化でき、持続可能な社会に近づいているかどうかを市民が容易に理解することが可能なのです。

また、持続可能性指標では、地域の将来世代にわたる持続性や資源の持続性という観点から対象を見ていく点が特徴です。経済分野においては所得や雇用という単一の観点で見るのではなく、基本的ニーズを満たすだけの所得が得られているかが重視され、環境分野では汚染の程度よりも持続可能な範囲での

資源利用や汚染物質排出が重視されるのです。

### 3. 指標によって環境配慮活動を促進する

さらに特徴的なことは、指標を示すことによって、企業・県民・行政・NPO の環境配慮行動を促進することもアジェンダの指標の大きな目的だということです。アジェンダの目的は各主体の行動によって持続可能な社会を作ることであり、行動を促すような指標を作ることは、その目的に適うものです。

そこで、アジェンダの指標は以下のように、状態を表す指標と参加の度合いを表す指標の 2 種類を作成することが多いです。たとえば、先ほどでてきた“水質基準の達成比率”を状態を表す指標とすれば、参加の度合いを表す指標としては、“水辺を利用した環境教育実施数”などをあげることができるでしょう。このような指標を掲げることにより、環境教育の実施が増え、それが水質の改善につながると予想できるからです。では、“一般廃棄物最終処分量”ではいかがでしょうか？“レジ袋有料化店舗比率”などがいいでしょう。レジ袋が世の中から減ってくれば、市民の意識も変わってくるでしょう。

### 4. よい指標

現在、かながわアジェンダ推進センターの理事が核となり、アジェンダ 11 分野のうち「そら」<sub>1</sub>、「エネルギー」<sub>2</sub>、「みどり・つち」<sub>3</sub>、「まちづくり」の分野で上記の考え方で指標作りに着手しています。もちろん、どのような指標でもいいわけではありません。よい指標には、4 つの条件があると言われています。

- (1) 正確で安定している（実態を表す 誤差が少ない）
- (2) データが確保できる（統計資料や実地調査から）
- (3) 取組の成果とつながっている（取組をがんばれば指標数値に反映）
- (4) 進むべき方向がわかる（指標の数値の改善 = 目標ビジョンの実現への接近）

「みどり・つち」では“里山保全に取り組んでいる団体の会員数”を指標として採用しようとしています。どんな団体でもいいわけではありません。「これこれ、このような活動をしている団体」との定義



をきちんとします。この定義をすることにより、定義に沿う団体の会員は、地道に里山保全に取り組んでいるに違いない、と考えることができるのです。

#### 5. 多くの方々といっしょに作りたい

環境学習リーダー会のみなさまは、環境配慮行動をなさっている方々です。そのような方々と、真摯に議論し、指標を作っていきたいと思っています。

## 会員の広場

### 地球市民をつくりたい

NPO法人ふるさと環境市民  
西 寿子(座間市)

「ワー、博士がいたー!!!」と喜んでかけ寄る子供たちの楽しそうな顔。「ふるさとの宝をさがそう! 博士大集合」のひとこまです。

小学校と連携して、ホタル、歴史、ごみ、地球、とり、水の六人の博士が、学校周辺の川のほとりや公園などポイントに点在し、班ごとにコーディネーターに伴われた子どもたちが順番に博士を訪ねます。

ホタルの生息地では、一年中 16 度という温度を保つ水に触れ、幼虫が光る写真を見て驚きの声を上げています。鳥のところでは折良く見られたカワセミの姿に感激したり川のほとりで水質検査をしたりして約 2 時間位の間子どもたちはさまざまなことを感じます。

一緒に歩くコーディネーターは「秋の色をみつけ

参加を促進する指標だからこそ、実践いただいている方々のお知恵をいただきつつ作らなければなりません。最初に取り組む 4 分野については、3 月完成を目標として取り組んでいます。この大切な仕事に、加わっていただきますよう、どうぞ、よろしく願いします。

参考 web : <http://www.kccca.jp/shihyou.htm>

てみようね」とか「空を見上げてみよう、雲の形はどんなかな?」などと話しかけ、子どもたちの五感を少しでも刺激していこうという工夫を重ねます。

「たのしくわかりやすい環境学習」をめざして博士の衣裳や帽子も手作りし、昨秋には更にクリーンエネルギーを考える「おひさま」と身近な植物の「くさばな」の 2 博士を新たに誕生させました。また、秋の季節ならではの、の落葉プールを作り美しい枯葉に埋もれたり、かさこそという葉音を楽しんだりしました。

この他にも夏休み親子環境塾や、太陽とかぜの学校、先進国ドイツやスウェーデンのとりくみ報告など、いろいろな切り口で環境学習を展開しています。

これからの子供たちにとって、環境を守ることは至上の使命になります。私達が伝えていくことで、一人でも多くの地球市民をつくりたい! という思いを持って歩んでいきたいものです。

## 会員の広場

### ゴミで谷を埋め、 道路を造る

神奈川県産業廃棄物最終処分場を  
見学して

鎌田 裕二(大和市)

平成 17 年 11 月に、環境科学センター主催の「循環型社会コース」に参加した。講座二日目は川崎市にある産業廃棄物中間処理場、及び横須賀市にある

産業廃棄物最終処分場の施設見学であった。本稿では後者の「産業廃棄物最終処分場」について報告する。

自分という人間の大きさと比べてみると、とてつもなく巨大な谷間を見ている。谷間にはモルタルが吹き付けられその上に丁寧にビニールシートが張られている。この巨大な空間ですら 10 年後には廃棄物でいっぱいになり、今見ている空間は、儚くも消滅してしまうのだ。

「産業廃棄物最終処分場」は、県環境農政部廃棄物対策課が所轄し、横須賀市芦名 ハイキング

で有名な大楠山の脇の谷間に所在し、2006年4月より廃棄物を受け入れ、埋め立て開始の予定である。それから約10年間受け入れを継続し、廃棄物埋め立て総容量は約54万m<sup>3</sup>となる。埋め立て後には、その上部に都市計画道路を建設するため、受け入れる廃棄物は、県内事業者から排出された産廃のうち、中間処理され、道路路体に適した もえがら、汚泥、煤塵、瓦礫類、鉍さい、ガラス・陶磁器くずに限る。

建設にあたり、周囲に降り注ぐ雨の流れと埋め立て地を流れる雨を分離、後者は浄化したうえで下水道に流す。伐採面積を最小化するための法面工法の採用、廃棄物は塩化ビニール等の層で完全に閉じ込め、その層からの水漏れを監視する装置の設置、北武断層を避けるように埋め立て地、構造物を配置し、配管系統は断層をまたぐように地上配管する等の配慮がされている。また埋め立て後の道路整備に際しては緑化復元を行う計画である。

10年後道路が整備され、その上を行き交う自動車

に乗っているひとたちは、まさか自分たちがゴミの上を走っているとは感じないであろう。10年後のひとたちは、また別の谷を埋めているのであろうか。幸いなのは、別の谷を探すのか、ゴミを減らすのか、今日の我々は選択肢を持っていることだ。



(横須賀市芦名 産業廃棄物最終処分場建設風景  
平成17年11月25日撮影)

## 会員の広場

# CO<sub>2</sub> 封じ込め作戦 について

長村 吉洋 (川崎市)

地球温暖化防止の切り札として、二酸化炭素を地中に封じ込める技術が注目されている。昨年12月10日の新聞記事によると、カナダの油田で、CO<sub>2</sub>を注入し、地表に漏れないかどうかの観測が2000年から行われているとのことである。古くなった油田で圧を高めるためにCO<sub>2</sub>を注入し、さらに油を取り出す技術でもあり、温暖化防止に充分活用できるとしている。

Science 2005年9月30日号でも、このような地盤中に二酸化炭素を閉じ込める技術が、ノルウェー、アルジェリア、カナダなどで導入の検討がされていることを報じている。そして、この技術に対して、非常に有効ではあるが、従来技術を活用するシナリオに比較して非常にコストがかさむことが懸念されるという報告もなされている。

このようなCO<sub>2</sub>の隔離技術は、人への健康被害や環境汚染のリスクが非常に少ないことは確かであろう。日本でも、地球環境産業技術研究機構(RITE)で積極的に研究が行われており、海洋隔離技術や地

中貯留技術が検討されていて、今後も上昇するCO<sub>2</sub>排出量を、現在推進されている省エネルギーや原子力、再生可能エネルギーへの転換だけでは、産業革命以前のCO<sub>2</sub>濃度の2倍にまで押さえるのはとても不可能であることから、現実に検討を急ぐ必要のある技術であると言えよう。地球環境産業技術研究機構によれば、長岡プロジェクトと称するCO<sub>2</sub>圧入試験が新潟県の油田で行われており、その成果が期待されている。

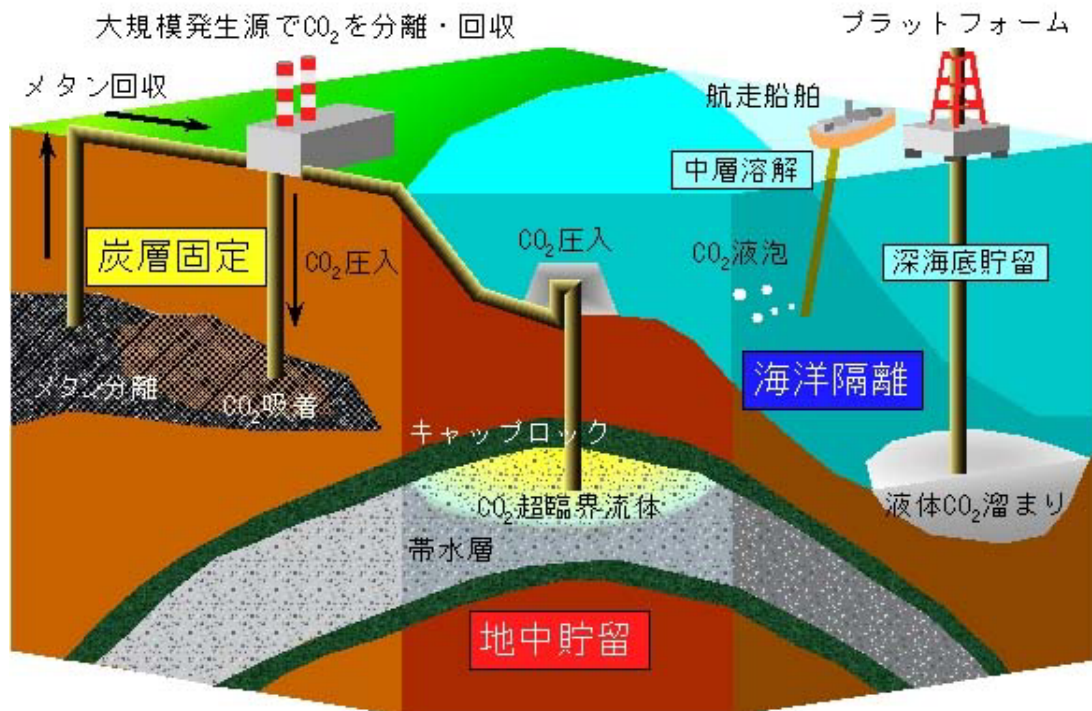
とりわけ、京都議定書に批准していない米国では、このようなCO<sub>2</sub>隔離技術や、バイオリファイナリーを進めており、EUとの間での極めて戦略的なCO<sub>2</sub>削減には同意しなかったかわりに、当面の目標ではない長期的目標の達成に向けた米国らしい一歩進んだ開発を行っていることが見て取れる。

我々のような小さな一市民が、日々の生活で省エネを実践することは微々たる効果しかもたらさないことはわかっているが、世界万民すべてがいずれは取るべき行動を先駆けて実践しているという意味は大きい。それと共に、国家的な戦略的技術の開発の持つ意味も考えさせられるものがある。本来、CO<sub>2</sub>の海洋隔離や地中貯留などを行う必要もない世界の到来を目指さなければならないわけであるが、発展途上国からこれからはますます発生するCO<sub>2</sub>に対して、何らかのなすすべを講じることは必要不可欠であり緊急の課題であるとともに、その安全性の確

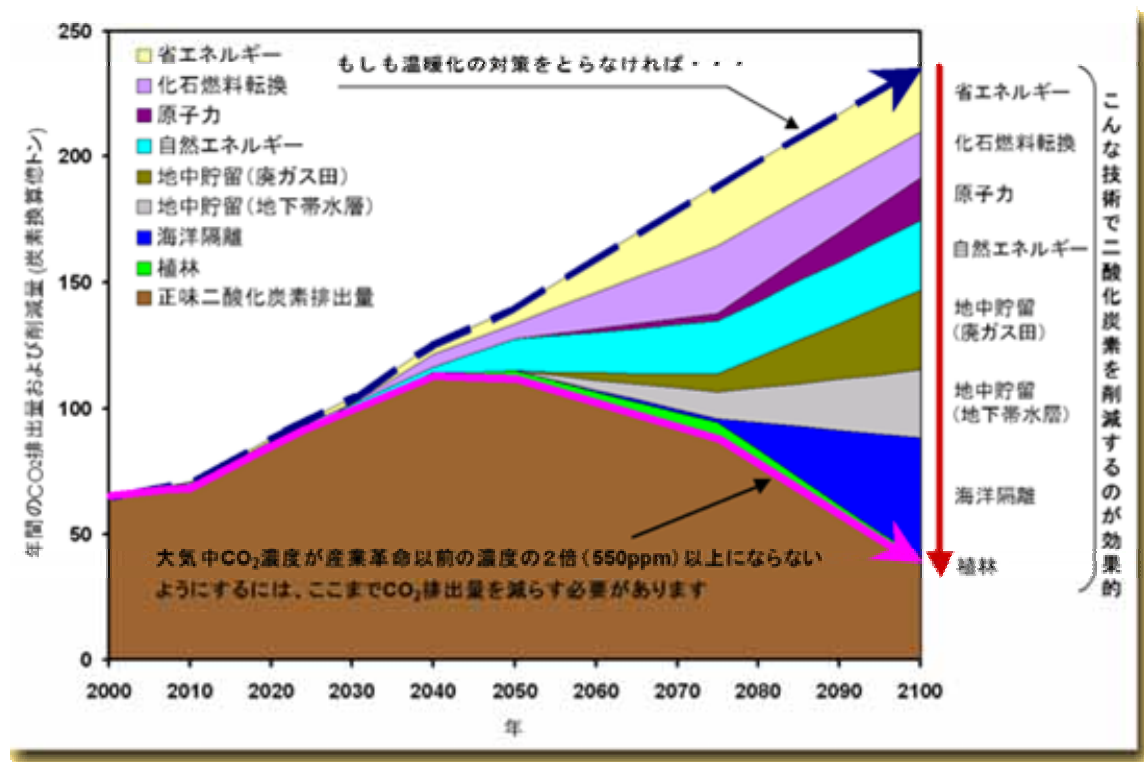
認、経済性の検証、ならびに世界の一般市民の理解に向けての努力も今後なされていく必要があると思われる。

詳しくは、地球環境産業技術研究機構のホームページ <http://www.rite.or.jp/>を参照されたい。

## 二酸化炭素隔離の概念図



<http://www.rite.or.jp/Japanese/lab0/choryu/choryu.html>



<http://www.rite.or.jp/Japanese/lab0/sysken/system-global-warming.html>

# 『みんなの環境展』2006 ～美しいふるさとをこどもたちへ～ を終えて

狩野 光子（厚木市）

昨年に続きみんなの環境展を1月10日～1月16日までの1週間、厚木市市民ギャラリーで開催しました。第2回目の今年は、ギャラリートークやワークショップなど新たな試みも加えて、楽しい環境展を開催することができました。

## 展示内容

- \* あつぎ環境市民の会の活動紹介
- \* 世界のソーラークッカー15点展示
- \* 「+2°Cの世界」神奈川県立生命の星地球博物館資料

## 博物館資料

- \* 未来に残したい厚木の風景
- \* 市民環境団体の活動紹介
- \* 学校での環境学習の紹介
- \* 情報コーナー

大気部会の皆さんにお世話になりましたNO<sub>2</sub>の20箇所の測定マップを展示し、道路沿いと公園緑地ではNO<sub>2</sub>の値の差がはっきり出ていることを説明しました。

市民環境団体のコーナーに、リーダー会廃棄物GO3部会が神奈川県のごみ状況と厚木のごみ処理の変化のパネル、エコタウン参加で作成した7ブロックのパネルを展示しました。情報コーナーには環境科学センターの市民活動に欠かせない情報が満載！パネルも展示して頂きました。

14日のギャラリートークでは厚木市にお住まいの東海大学・理学博士上原富美哉教授に「太陽エネルギーと地球環境」のお話をして頂き、15日には元県立生命の星・地球博物館学芸部長の松島義章氏から縄文時代の海は広がったなど、海岸線の床面大地図をみながらお話して頂きました。

ギャラリートークでの講座は私たちも大変勉強になりましたが、太陽と地球の話を知っていると人間の存在が、ちっぽけに思えました。

今回特に気を配ったのが、一般の方々に来て頂くにはどうしたら良いだろうか？ということでした。

仲間がマスコミに投稿や呼びかけをしてくれました。お陰様で4社の新聞社が取り上げてくれ、7日間で724名の方々に来て頂きました。また、アンケートの結果、地球温暖化に関心のある方は75%もありました。関心があっても何をしたら良いのか？分からなかった方が環境家計簿のコーナーをみて自分もやってみようと思われた方もおられました。

無事終了しホッとしていますが、いつもの事ながら多くの方のご協力に感謝申し上げます。



【厚木市長に縄文時代の温暖化を説明する会員】



【世界のソーラークッカーと手作りのクッカー15点】



【おばあちゃんの家沈んじゃうの？】

## 13期新入会員のメッセージ

神奈川県環境学習リーダー会に新たに加わった方々から寄稿をいただきました。以下に「新入会員からのメッセージ」と題して、掲載いたします。

### 新入会員からのメッセージ

横山 進、(横浜市)

神奈川県環境学習リーダー会 13 期で入会いたしました横山と申します。企業を定年退職後、環境にかかわることをしたいと思い、県の地球温暖化防止推進員になりました。

現在は青葉区で同じ推進員 5 名の方と「セーブあおば」と言うグループを作り地域での活動を行っています。ただ、実践的な活動はまだまだ実を結んでおらず活動の難しさを感じています。

学習リーダー会との関わりは平成 15 年になりませんが、市民活動報告会で「自動販売機の実態」を報告してもらいました。

われわれが実際にできる温暖化防止は地道な省エネルギー（不用な消費をやめる、効率の良い使い方をする）が一番との考えです。

これを心がけて今後も活動したいと思っています。何かとお教えいただくことが有ろうかと思いますがよろしくお願いします。

### 共生

鎌田 裕二(大和市)

横浜出身で現在大和市に住んでおります。約一年ほど前に、それまでの「120%会社人間」生活を反省し、「人間」、「市民」であることが、まず大事なことだと思い、「環境問題」を意識し始めました。その後、本年度から「神奈川県地球温暖化防止活動推進員」になり、幅広く「環境問題」の勉強に明け暮れながら、人の輪を広げてきています。

この度「環境学習リーダー会」に参加させていただき、さらに諸先輩方との輪が広がることを期待しています。私の「環境問題」に対しての「思い」を以下に添えて、入会の挨拶とさせていただきます。皆さんよろしくお願いいたします。

「共生」 国語辞典を紐解けば 異種の生物が相手の足りない点を補い合いながら生活する現象 とある。

わずか 18 世紀後半に始まった産業革命以降、我々人類は 46 億年の地球という星の歴史の偉大さに比較すると、激しく急速かつ加速度的な勢いで大事な自然の摂理を見失ってしまった。

「人類」は所詮、地球上の他の生物と同じく地球という生態系の一部に過ぎない。すべての生物の生命(いのち)の源は太陽でありその力により循環する水と言うことが可能であろう。

「人類」は今日、太古の生命の遺物である化石燃

料を大量消費し、自然が持っている回復能力をはるかに超える廃棄物をもたらす大量消費を続け、回復力を持った自然環境を人為的に減少させている。

今後アジアの国々の生活水準が先進諸国に近づくにつれ、「人類」の行動がもたらす「生態系」への影響はさらに進む可能性がある。その影響はすでに異常気象等の形態で我々にも直接の被害をもたらしている。

我々「人類」は他の生物と「共生」しているに過ぎない存在であることを今こそ思い出そう。今日の我々はそれらとの「共生」でなく、それらを支配したかのようにそれらの自然回復力を超えた、それらからの略奪行為をしている。

「人類」は間接的にも、直接的にも他の生物、が暮らす地球に依存している存在である。今日、我々が将来の「人類」に対してすべきことは我々が他の生物、およびそれらが暮らす地球と「共生」していくことであろう。



新入会員からのメッセージ

貴戸 禎治 (横須賀市)

貴戸禎治 (きどただはる) と申します。横須賀市在住、42 歳、会社員です。

会社では環境部門に所属して ISO14001 の事務局の仕事をしています。会社だけでなく地域で環境関

連の活動をしてみたいと思い、リーダー会へ入会しました。所属部会は廃棄物 GO3 部会、水環境部会です。水環境部会には、まだ出席したことがありません。最初に登録したメールアドレスが間違っていたため、通知が来ていないためだと思いますが…。よろしく、お願いします。

新入会員からのメッセージ

吉田 光雄 (横浜市)

リタイアした後、しばらくの間、徒歩旅行に魅せられて東海道五十三次をかわきりに街道歩き、秩父霊場、四国八十八箇所巡拝などに明け暮れていました。

そんな折、ご縁により昨年春から地元青葉区をベースに地球温暖化防止活動に取り組んでいるボラン

ティアグループ「セーブあおば」に加えていただきました。環境問題にはまったくの素人の私ですが後の世代を思うとき、「何とかしなければ…」という思いで「私にできることは何だろう？」と現在模索勉強中です。皆様方のご指導よろしくお願いいいたします。

新入会員からのメッセージ

吉澤 誠一 (小田原市)

こんにちは。

歩く毎日、笑う毎日。そのおかげで爽快な日々を過ごしております。私、このたび 13 期でリーダー会に入会いたしました吉澤誠一と申します。

ソ：掃除 ウ：運転 カ：買い物 イ：育苗 に地球環境保全を意識しています。ソウカイ、ソウカイとどうぞ気安くお仲間に加えてください。之といった趣味を持たない旅好きの男。今年 62 歳。どうぞよろしく御願いいいたします。

新入会員からのメッセージ

藤田 滋 (横浜市)

セミ・リタイア中の団塊人です。昨年 4 月に一年間の JICA のセニア・ボランティアとしてアルゼンチンでの活動を終えて帰国し、家でブラブラしていたところ県の便りで環境実践者講座を知り、受講後、真摯な会員の皆様からリーダー会に勧められるままに入会した次第です。

さて、アルゼンチンでの派遣先は同国の北パタゴニア地区のリオ・ネグロ州のサン・アントニオ・オエステと云うサン・マティアス湾に面した人口 16 千人、200km 四方に全く集落の無い超田舎町にある海洋生物水産研究所でした。北パタゴニアでの一年間の生活のなかで、地球の大きさ、人々の暖かさにも触れ、嫌というほどの大自然を満喫出来ましたが、同国の誇るべき世界自然遺産 (氷河・鯨・アザラシ

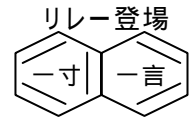
等) が、ひたひたと侵されていることも知らされました。

注：アルゼンチンでの活動状況はこのサイトをご覧ください。

<http://www.abic.or.jp/reports/052/02.html>

若い頃は、世界各地からの食品や水産の買付けの仕事に従事していたので、今思うと随分アンチ環境保全の様なことをやっていたのかと、でも開発途上国には多少の経済的貢献を・・・時には複雑な気持ちにさせますが、まずは罪滅ぼしの実践的且つ真面目な環境学習者になれればと思っております。新米会員として何をしようかと考えているところですので、ご指導方よろしくお願いいいたします。

# 「かながわエコBOX」をご利用ください！



杉山 陽絵（鎌倉市）

かながわ県民センター(横浜駅西口)3Fにある「かながわエコBOX」というアジェンダ 21 かながわ環境情報相談コーナーをご存知ですか？この相談コーナーは、新アジェンダ 21 かながわが 2003 年 11 月に策定されたのを受け、アジェンダの普及、環境に関する相談や情報提供を担う窓口として、2004 年 4 月に開設されました。現在、神奈川県と NPO 法人かながわアジェンダ推進センターが協働で運営し、当リーダー会の会員数名も相談員として交代で勤務しています。(私は事務を担当)

エコ BOX には、中学生が環境問題について教えて欲しいと尋ねてきたり、環境について学んでいる大学生が資料収集に来たり、環境活動をしている方が地球温暖化について話すことになったので参考になる資料が欲しいと訪ねてきたり、環境に関するボランティア活動をしたいのだけと相談にきたりと、さまざまな方が来られます。相談は、電話でも受け付けています。時には手紙やメールで相談を受けることもあります。相談を受けるたびに、相談員が今までの経験や知識をフル活用して、助言や問題の解決にあたっています。

また、書籍やワットアワーメーターの貸し出しも

行っています。特にワットアワーメーターは人気が高く、県内各地の講座等で活用されています。

そのほか、神奈川県内で活動されている環境団体の情報収集や、HP で環境イベント情報等の発信も行っています。各地域で活動されているみなさまの団体情報（団体紹介パンフレットなど）や講座・イベント情報も、ぜひ、お寄せください。

HP 等に掲載し、PR のお手伝いをいたします。

みなさまのご利用をお待ちしています！

「かながわエコBOX」

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2

かながわ県民センター 3F

TEL：045-321-7453

FAX：045-321-7454

E-Mail：agendacorner@kccca.jp

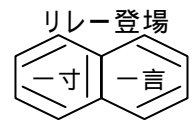
HP：

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kankyokeikaku/ecobox/index.htm>

利用時間：年末年始をのぞく毎日、午前 9 時から午後 8 時

今回は伊勢原市の村井純子さんの登場です。

## 時限爆弾をかかえる



齋藤 昭一（相模原市）

ロシアのシベリアの永久凍土地帯に大きな異変がおきている、北極海に注ぐ大河プリマである。その河口近くの町チェルルスキーでのことである。氷点下 40 度の湖の氷に穴をあけるとメタンガスが音をたてて噴きだす、マッチの火を近づけると 2m もの炎があがる。厳寒のこの時期、日照時間は 3 時間ほど最近 5 年間の夏の平均気温は 1980 年代より 2 度も高くなり、深さ 40m もある分厚い永久凍土が解けて湖が次々出現している、その湖岸の崩壊減少は年間 10m、湖の面積は 10 年間で 15% も拡大している。

この永久凍土は死んだ植物が分解される時に作られたメタンが大量に蓄積され、凍土が解けるとそれが放出される。メタンの濃度は 2,000ppm、シベリア全体から大気中に放出されるメタンは毎年 10 万トンにもなる。メタンには二酸化炭素の 23 倍の温室効果を持つ気体である。解ける永久凍土は温暖化の結果である、それと同時に加速する原因にもなる。

日本の面積の 26 倍もあるシベリアの永久凍土が「時限爆弾」といわれる所以である。いままでシベリアは温室ガスの吸収源と考えられてきたが、もはや放出源と化している可能性があるという警告されている。いまやその凍土の中より絶滅したマンモスの象牙が頻々と見つかり、金の採掘に次ぐ 2 番目の地場産業という。

雪氷圏は、温暖化現象が真っ先に表れる「地球のアキレス腱」でもある。米国のアラスカでは海氷の後退で波による侵食が強まり、海岸近くの住宅の移転が始まり、ヒマラヤ山脈でも、氷河の末端が解けて出来た湖が拡大。ブータンでは 97 年にこの氷河湖が決壊して洪水となり死者まで出ている。

巨大化するハリケーン、猛暑、極寒、豪雨、乾燥、・・・頻発する異常気象、地球温暖化の影響を無視して何事も論議する事の出来ない時代となった。

今回は伊勢原市の石丸博司氏にお願いいたします。

## 掲示板

### 第 12 回市民環境活動報告会の開催について

実行委員長 柳川 三郎

県内各地で自主的な環境保全活動・改善に取り組んでいる神奈川県環境学習リーダー会・地球温暖化防止活動推進員・かながわカウンセラー協議会・市民の皆さんがこれまでに取り組んできた様々な実践活動の事例とポスターセッションを発表します。

こうした皆さんの発表を聞き、ともに話し合ってみませんか。

開催日 平成 18 年 2 月 18 日(土)  
10:00~16:00

場所 かながわ県民センター  
2 階ホール

- \* 詳しい内容は同封のチラシをご覧ください。
- \* 報告会終了後に交流会を予定しておりますので、皆様のご来場をお待ちしております。

### 広報部にさらに部員が加わりました！

広報部では、先の 46 号において、異例のことはありましたが編集後記でリーダー会広報活動の危機を訴えたところ、昨年 10 月ご入会の長村吉洋さんに続き、同じく 13 期の鎌田裕二さんが新たにメンバーに加わりました。皆さん、どうか宜しくお願い致します。

広報部では、更に一人でも多くの会員のご参加を得て、会員相互の情報交換、会の活動の情報発信源として会報並びに HP の内容充実を図ってまいりたいと、下記の通り部員を募集いたします。皆さんの応募をお待ちしております。

担当役割：下記の一つ又は複数

- ・会報の編集企画
- ・会報記事の取材
- ・会報紙面作成(パソコン操作)
- ・会報の印刷・発送
- ・HP の更新

募集期限：随時受け付け

連絡先：広報部長(本誌末尾参照)

(広報部)

### 会報を通して皆さんの環境活動に会員の参加を呼びかけませんか

一昨年地域活動サポート部が行ったアンケート調査で、会員の皆さんの環境活動について多くのご意見を頂いた。当時会員の所属するグループは 32 グループあり、

そこで抱えている共通の問題点・課題として大きなものが次の 3 点でした。

- (1) 活動する会員の不足
- (2) 活動資金の不足
- (3) イベントの参加人員

会報では、地域での会員の環境学習活動と環境保全活動を出来るだけ会員の皆様にお伝えするために紙面を割くようにしてきておりますが、更に踏み込んでそれらの活動・イベントの予告情報を掲載し、会員を中心に参加を呼びかけることを積極的に推進していきたいと考えております。又、イベントに関しては地域の会員が関係する或いはその地域の市町村が主催する環境展等の情報も扱っていきたく思います。

会報の発行が隔月ということもあり、必ずしもタイムリーな情報を掲載できないケースも有ろうかと思いますが、このような主旨をご理解頂き、地域での環境活動・環境展等の環境に関するイベント情報の開放への掲載希望を広報部までご連絡いただきたいと思います。

連絡先：広報部長(本誌末尾参照)

原稿〆切：奇数月 15 日(お問合せ下さい)

(広報部)

### 編集後記

昨年未から、日本海側を中心に大雪が降っています。「北極振動」が厳冬の原因とされています。一昨年末から「ディ・アフター・トゥモロー」では、地球温暖化の影響として、ボール大のヒョウが降ったりし、海流が 3 箇所停滞し、マイナス 70 度の寒波が襲うという内容でした。この映画は行きすぎだよ！でも今年は寒いな、と思っていたら、日経エコロジー 2 月号に「気候変動で欧州は寒くなる？“新氷河期到来説”に科学の新事実」というロッキーマウンテン研究所の記事が載っていました。「北大西洋での海洋循環が 1957~2004 年で約 30% 減少した。欧州へ運ばれる熱の現象、そして化石燃料に依存する生活様式の影響」だそうです。地球は確実に変わっているのかと感じた新年です。

広報部 原園 信夫

発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 安丸 元一

編集人：広報部長 黒澤 宏

TEL/FAX 0463-88-5193

E-mail: fk5h-krs@asahi-net.or.jp

発行日：2006 年 1 月 31 日